81. 3. 25 毎日

(第3種郵便物認可)

史上最大の英列車強盗

ビッグス逮捕

バルバドス

【ブリッジタウン(バルバドス)二十三日UPI】バルバドス当局が二十三日語ったところによると、行方不明になっていた史上最大の列車強盗犯人ロナルド・ビッグス(三)はバルバドス島南東部沖合海上をヨットで航行中のところを沿岸警備隊に発見され、首都ブリッジタウンに護送された。

同当局によると、ビッグスはロンドンに本社のある警備会社の代理人によりリオデシャネイロ市内から誘かいされた。犯行に使ったヨットは、二週間前にカリブ海アンチグア諸島でチャーターされたもので、ビッグスの身柄は英国政府に引き渡されることになるという。

ビッグス失跡事件は三月十六日に発生、ブラジル当局は近く発刊されるビッグスの自伝のPRをねらった"狂言"とみていた。

【ブリッジタウン(バルバドス)二十三日AP=共同】この事件でバルバドス当局は二十三日、ヨットにはビッグスのほかに六人が同乗していたことを明らかにした。彼らはシングル・ポイントという警備会社の関係者で、このうち一人はジョン・ミラー(三)、もう一人はパトリック・キング(三)と名乗っている。

バイルレ氏が提訴

中央公論の作品"無断使用"

自作の版画を中央公論社(嶋中鵬二社長、東京中央区京橋二の八)刊行の金属ポスターに無断使用された――とする西独の版画家、トーマス・バイルレ氏(三)は二十四日、著作権侵害による一千万円の損害賠償を求める訴訟を東京地裁に起こした。

文庫出版で"二重契約"

日本SF大賞「太陽風が一点」早川と徳間が反目

ことし一月に第一回受賞者が決まった日本SF大賞(日本SF作家クラブ=小松左京会長=設定)受賞作の文庫本出版をめぐって"二重契約"があり、間に立った小松氏を巻き込んで、早川書房と徳間書店の間で告訴も辞さないとの騒ぎが持ち上がっている。背後には新しい文化といわれる日本のSFの評価をめぐっての作家、出版社の考え方の相違なども含まれていると見られ、問題はさらに尾を引きそうな情勢だ。

第一回日本SF大賞は一月十四日、堀晃氏の「太陽風が一点」(五十四年十月、早川書房刊)に決まり、二月五日、授賞式が行われた。受賞作を読みたい、という声があがったが、早川書房に在庫はなく、また「増刷はしないという話。文庫の出版も九月以降になると早川書房の関係者から聞いた」(小松氏の話)という状況に、日本SF大賞の事務局をつとめる徳間書店が文庫出版を計画。二月十九日には堀氏と徳間書店の間で正式契約が結ばれ、三月五日に出版された。

単行本を初版から三年以内に他の出版社が文庫本として出版する場合、もとの出版社へロイヤリティー(著作権使用料)を支払うのが出版界での慣行で、徳間書店側は早川書房へロイヤリティーを支払うつもりだったという。

ところが、堀氏と徳間書店の契約後に早川書房でも「文庫四月出版」の話が浮上した。「堀さんとは昨年十二月に口頭で文庫出版の話をした」として文庫出版が進められ、早川書房版は作者と没交渉のまま強手という異常事態となった。

このため小松氏が間に立って両社間の協議が進められたが、細部でまとまらず、早川側は「徳間からは前に文庫出版の連絡もなかったし、出版道徳にもとる出版妨害として徳間書店を告訴する」と主張。一方、小松氏も「私の早川から出ているものを絶版にする」と譲らず対立。その後①徳間書店から早川書房へロイヤリティーを支払う②早川書房の文庫四月出版を認める――ことなどで大筋の合意に近づいたが、まだロイヤリティーを純粋のロイヤリティーとするか「出版妨害」に対する弁償金とするかで両社間の最後のツメが行われている。

"文庫ブーム"の中で作者と出版社間の「口約束か正式契約か」をめぐる今回のトラブルは、今後の文庫出版界に波紋を投げかけそうだ。

放火ガードマンの控訴を棄却

大阪高裁

四十八年九月、開店間近の「西武タカツキショッピングセンター」(大阪府高槻市)が全焼し、死者六人を出した火災で、現住建造物放火罪に問われた綜合警備保障(本社・東京)大阪支社のガードマン(休職中)、江藤清範(三)=大阪拘置所在監中=に対する控訴審判決が二十四日、大阪高裁刑事七部であり、瓦谷末雄裁判長は懲役十二年とした一審の大阪地裁判決を支持し、江藤の控訴を棄却した。

この事件は江藤が公判で自供をひるがえしたため、無罪を主張する弁護側と検察側が控訴審でも対立したが、瓦谷末雄裁判長は「投棄段階で犯行を認めた自供は客観的事実で裏付けられており信用できる」と弁護側の主張を退けた。

飢餓民らにとユニセフへ千四百万円寄託

毎日新聞社会事業団

飢えと病に苦しむ世界の人たちに愛の手を――毎日新聞と同新聞大阪、東京両社会事業団の難民キャンペーンに全国から多額の寄金が寄せられているが、芦田定男・大阪社会事業団常務理事らは二十四日、第二回分として千三百七十八件、計千三百九十九万六千六百三十五円を日本ユニセフ協会を通して国連のユニセフ本部へ送った。これで募金額は第一回分と合わせ総額四千三百二十六万二千六百三十五円となった。

寄金の内訳は、アフリカの飢餓民千二百四十六万六千六百三十五円▽インドシナ難民九十六万八千円▽イタリア地震被災者三十七万円▽アフガニスタン難民二万四千円▽バングラデシュ八千円▽その他十六万円。

特に今年一月、毎日新聞で報道された「アフリカ・ケニア飢餓前線には大きな反響を呼び、いまも連日二十件を超す寄金が同事業団に届いている。

同事業団には一昨年のバングラデシュ救援キャンペーンに続き、昨年十二月にはカンボジア難民救援寄金として三千五百万円が寄せられ、アフリカの飢餓難民にもすでに二千九百二十六万六千円が届いている。寄金は引き続き大阪市北区豊崎一の六、毎日新聞大阪社会事業団で受け付ける。

五十嵐学長再選

福井大

国立福井大学は二十四日、五十嵐直雄学長(六)の任期満了に伴う学長選を行い、五十嵐学長を再選した。任期は五月十八日から二年間。

福井県坂井郡出身。東大工学部卒、福井大工学部長を経て五十二年四月、学長に就任。建築設計計画専攻。